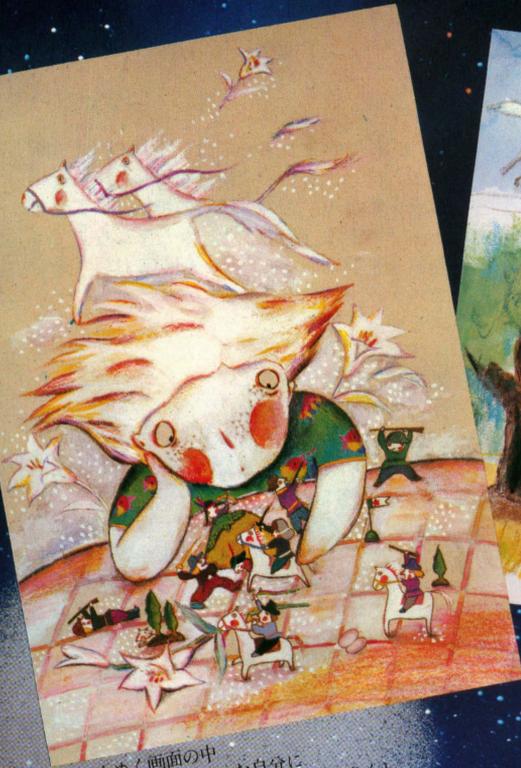


# 「絵本」も泣いています。

イタリーの青い海、オリーブの美しい森。そこをバニー少年の夢が、白馬の騎士となって駆け抜ける。それはまるで、私を少年の日へとかりたてるよう。  
(井口文秀さん)



BUNSHU

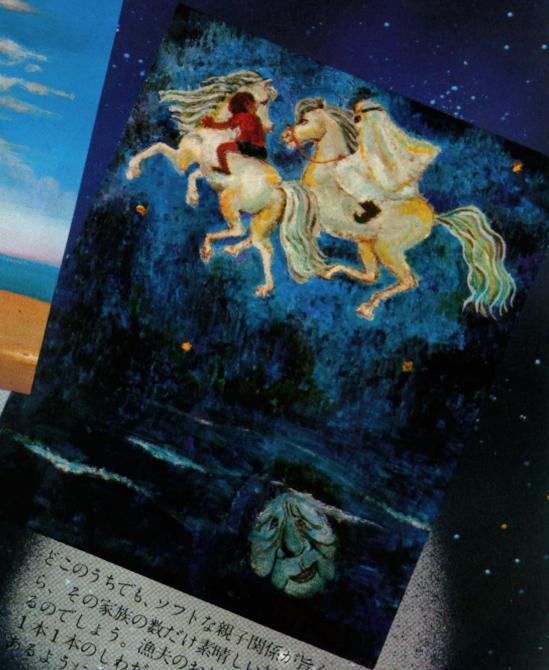


きらめく画面の中  
やさしさを忘れかけていた自分に  
気づきます。——(三井小夜子さん)



KONISHI

海辺になつといろんな夢が翔んできて、私の絵になります……。きっとバニー少年も、心の中で、葉の絵をかいていたのでしょう。——(このこのみさん)



どこのうちでも、ソフトな親子関係が旨いから、その家族の数だけ素晴らしい神話が生まれるのでしょう。漁夫のおじいさんの顔を刻む一本1本のしわが、そのおじいさんの神話であるように。  
(小野かおるさん)

バニーの《涙》は  
言葉にならない  
小さな《願い》

## バラードフォーバニー 星空の神話

BIANCHI CAVALLI D'AGOSTO

音協会員に限り、お得な特別観賞券880円(一般1300円/学生1100円のところ)発売中!

### 8月《涙と感動》のロードショー

有楽町 日劇前 ニュー東宝 シネマ2 (571) 1947

# いま、 親と子をあたたくつつむ 新しい神話が生まれました。

## ●かいせつ

日本で最初に、バニーの愛と涙に触れたのは37人の絵本画家の人たちでした——。

それぞれの愛をそれぞれの「絵」にたくして、限りないやさしさがいっばいに広がる。そんな映画が、初秋の日本にやってきました。

「星空の神話」——それは4年前、あの感動作「メリーゴーランド」を見て感激したひとりの少年がきっかけで生まれたのでした。少年は、ライモンド・D・バルツォ監督へ1通の手紙を書いたのです。そこには少年と家族が経験した愛の試練が切々と綴られていたのです。その手紙に心を打たれた監督は、3年間の沈黙の後、その時の感動を映画「星空の神話」にこめ、全ての人々に捧げたのでした。

きらめくベニス海、ポンペイの古代遺跡。そして、どこまでもやさしく風にそよぐオリブの森。イタリーの美しい保養地を舞台に、ひとりの少年バニーの愛と哀しみを見つめつづけたこの映画は、本国イタリアで公開されるやまたたく間に全ヨーロッパまで感動の渦が広がり大ヒット。そして映画とともに甘く哀しいテーマ曲もヒットチャートをかけ登り大ヒットを記録。人々は、バニーの愛をしつかりと心に抱きとめたのでした。

ひとりぼっちの小さな心に描き出させる愛と涙の座標「星空の神話」——。

いま、世界中の親と子をあたたくつつむ新しい神話が生まれました。



## 「バニーの瞳」

レナート・チェスティ少年

「断絶が生まれるのではなく、すべては断絶からはじまる」——親と子の絆を求めるバルツォ監督が、この「星空の神話」にこめたテーマである。その主張はかたくななまでに熱気を帯びていたという。何がこれほど彼をこのテーマに執着させたのか……それはレンズを通して監督の心にすみついた、チェスティ少年の魅力ある瞳であった。このテーマを効果的に映像化するには、この瞳の輝きしかないとい彼は決めていた。

監督の意見はすぐにスタッフへ伝えられ、「星空の神話」の主人公はチェスティ少年に内定したかに見えた。

しかし「メリーゴーランド」以来、爆発的人気呼び、ティーンのアイドルとなったチェスティ少年のハードスケジュールはすさまじいものだった。一見、絶望的とも思えるスケジュールへの割り込み作業に、まず考えられたのは両親の説得であった。両親さえ我がの撮ろうとしていた映画を理解してくれば、きっとうまくいく……。それは監督はもちろんのこと、カメラマンや音楽のミカリツツィまでかり出しての説得だった。

そんな日が連日夜遅くまで、ひと月近くも続いた雨の夜、待望のシナリオ第1稿が完成、とくに監督の希望でテーマ音楽までも同時に出来る上がる熱の入ったものだった。

早速スタッフは説得の最後の決め手とばかりにチェスティ少年と両親に聞かせたのだった……みんな泣いていた。雨空いっばいにひろがったその美しいメロディーの中、シナリオを手にしたチェスティ少年と両親……。

かくしてチェスティ少年の「星空の神話」への出演をスタッフはかちとったのである。



## バニー フォーンニー 星空の神話



## ●バニーはいつも ひとりぼっち……

大人たちのエゴとも思える愛の葛藤にまきこまれ傷つく小さな心。ただ孤独にならされていくしか術を知らない11才の少年、バニー。

そんなバニーの心を慰めてくれるたったひとつの世界、それは空想の世界。独りきりになったバニーの脳裏をたくましい幻想がかけめぐる…波打ち際を白馬の騎士たちが駆けてくる。沖を通る船は海賊船で、船長が声をかけてくれる…それはバニーだけの世界。唯一の幸せな時に思えるのだった——。

## ●やさしい心で触れて 下さい——バニーの世界

涙にぬれたバニーの瞳。すれ違う愛。そのすべてを言葉で語ることはとてもできないこと……そう、バニーの涙は言葉にならない小さな叫びなのです。この映画にこめられたそんな思いを1枚の絵にたくして、いま、素晴らしい「絵本」の世界が少年の心をやさしく見つけています。

それぞれの愛を、それぞれの「絵」に——きっと、限りない愛がすべての人々の胸奥深く広がることでしょう。

あなたのやさしい心で触れて下さい、この絵本の世界を。きっと、絵本も泣いています……。

